

視察報告書

委員会名	建設産業常任委員会
視察日時	平成30年11月 7日(水) 9時00分～10時30分
視察先	宮城県南三陸町
視察項目	商店街の復興・活性化について
視察参加議員	小島忠義、寺崎強、松月よし子、徳安達成、柳明夫、平田雅紹
視察概要	
【町の概要】	
<p>宮城県南三陸町は平成17年10月に本吉郡志津川町と同郡歌津町の2町が合併して誕生した町である。同町は東日本大震災によって、平成30年5月末で死者620人、行方不明者211人、また、全壊3,143戸、半壊、大規模半壊178戸(全体の58.62%)という大変な被害に見舞われた。震災前の平成23年2月の人口は17,666人、世帯数5,420世帯であったが、平成30年9月末では人口13,048人、世帯数4,582世帯と大幅に減少している。</p>	
【観光客の状況】	
<p>平成18年合併時の観光入込客数は980,334人、宿泊数269,270人であったが、平成29年の宿泊数は187,320人と減少しているものの、観光入込客数は1,425,043人と増加している。</p>	
【観光施策について】	
<p>被災直後に町長がメディアで被害状況を発信したことで、町へのアクセスや宿泊先についての問い合わせが増加した。そのため、その対応が観光客への対応を重なることで、その受け皿として観光協会の機能を強化した。南三陸町観光協会に対して、教育旅行で震災学習や企業研修のほか、観光客集客施設整備・受入体制整備や情報発信事業などを委託し、事業としての成果を求めようとした。その成果として、観光協会の職員は16人体制となり、積極的な取り組みを進めている。</p>	
<p>また、人工的な砂浜をつくり、夏場の観光客を呼び込む取り組みや地域おこし協力隊の取り組みを行政としても進めている。地域おこし協力隊については、8人が務めており、定住につながるように副業を認め、協力隊の任期が終了した時には起業することを進めている。</p>	
【商店街の取り組み】	
<p>震災後、支援物資が届く中で商習慣が薄れることを懸念した店主が復興市を開始した。中小企業振基盤機構の助成金を活用し、仮設商店街の施設の貸与をうけて「さんさん商店街」を作った。その後、貸与期間が満了するまでに、「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」を活用し施設整備が必要となるため、その主体となるまちづくり会社「株式会社南三陸まちづくり未来」を設立している。町から1,000万円を出資し、「南三陸まちなか再生計画」を策定し支援している。</p>	
<p>このような背景のなかで、多くのメディアに取り上げられ、三陸自動車道の延伸の効果もあり、交流人口の増加につながっている。</p>	
<p>商店街は南三陸町には2カ所あり、志津川地区に南三陸さんさん商店街、歌津地区に南三陸</p>	

ハマーレ歌津商店街がある。ともに町有地に設置されており、南三陸さんさん商店街は今後「道の駅」登録を目指している。

地域住民は、商店街主催のイベントや、住民が主体となった商店街を会場とするイベントなどを開催し、地域の活性化につながっている。

【今後の課題や取り組み】

町としては、交流人口の拡大に取り組んでいるのは、移住・定住をすすめていても住む場所の確保がままならないため。公営団地の整備を行ったが、コミュニティの再構築が求められている。

商店街としては、周辺環境の整備が必要となるが、両商店街がまちづくりの旗振り役となってまちのにぎわいを作っていくことに期待されている。同時に、商店、まちづくり会社ともに継続的な経営のための販促活動、集客の取り組みが必要である。

意見(本市にとって活用すべき事項・課題など)

震災後の過酷な状況のなかで立ち上がった店主の意気込みは素晴らしい。行政としてもまちづくりの中心として、2つの商店街を位置づけ積極的に支援している。また、人口減少を補う視点から交流人口増を目指しており、過疎債を活用しているとの説明を受けたが、観光協会に年間3,500万円の事業費をあて、事業委託により成果を求めることにより、観光協会の自主的な取り組みが、町の交流人口の増加に大きな働きをしている。

糸島市においても限られた予算の中で民間に委託する場合、これまで以上の効果を期待し成果を求める姿勢が必要だと感じた。また、糸島市でも意欲のある事業者に対する補助は行っているものの、より意欲のある事業者にまちづくりについても取り組んでいただけるような施策を期待したい。